

短 報

富山湾における鯨類の記録 (2015年)*

南部 久男¹⁾, 関 東雄²⁾, 田島木綿子³⁾, 山田 格³⁾

¹⁾ 富山市科学博物館 〒939-8084 富山市西中野町一丁目8-31

²⁾ 〒935-0032 富山県氷見市島尾214

³⁾ 国立科学博物館動物研究部

〒305-0005 茨城県つくば市天久保4-1-1

Records of marine mammals in Toyama Bay, Sea of Japan, during the year 2015.

¹⁾ Hisao Nambu, ²⁾ Haruo Seki,

³⁾ Yuko Tajima and ³⁾ Tadasu K. Yamada

¹⁾ Toyama Science Museum, 1-8-31 Nishinakano-machi, Toyama-shi, Toyama 939-8084, Japan

²⁾ 214 Shimao, Himi-shi, Toyama, 935-0032 Japan

³⁾ National Museum of Nature and Science, Department of Zoology; 4-1-1 Amakubo, Tsukuba-shi, Ibaraki 305-0005

はじめに

富山湾（富山県側）の鯨類や鰭脚類については筆者らにより、2001年から漂着調査等が継続的に行なわれている（南部, 2009; 南部ら, 2002, 2003, 2004, 2005, 2006, 2007, 2008, 2010, 2011, 2012, 2013; 関ら, 2005）。今回2015年に富山湾で確認された鯨類について報告する。

方法

鯨類の漂着については、情報を得次第、現地で体長や写真撮影を行った。また、来遊情報については写真がある場合は種を鑑定した。

結果と考察

2015年に富山湾で確認した鯨類はマイルカ科のカマイルカ *Lagenorhynchus obliquidens* が漂着6例6個体、目撃3例と、ネズミイルカ科のイシイルカ（イシイルカ型） *Phocoenoides dalli* の漂着が1例1個体であった。

下記にカマイルカとイシイルカの漂着又は目撃を、月

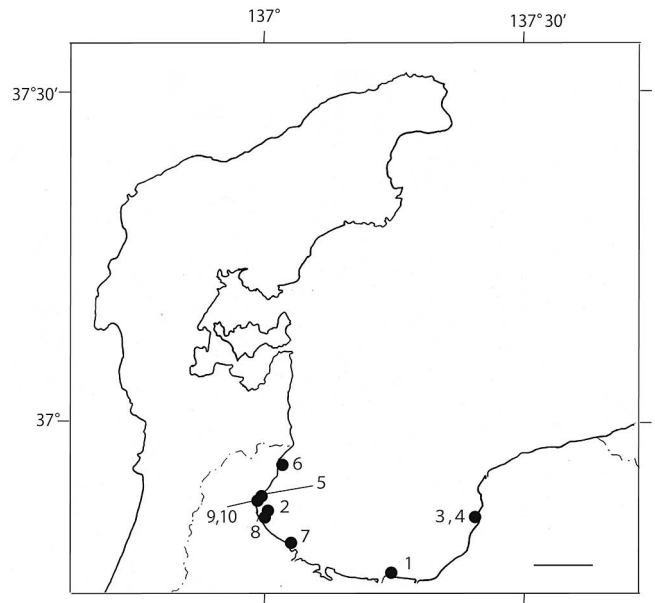


図1 鯨類の確認地点

1, 富山市岩瀬; 2, 氷見市唐島沖; 3, 4, 魚津市村木; 5, 氷見市阿尾阿尾漁港付近; 6, 氷見市姿; 7, 高岡市雨晴; 8, 氷見市窪; 9, 10, 氷見市阿尾。バーは10km.

日順に記す。データは(1)発見日, (2)発見者, (3)場所・状況, (4)計測値と状態, の順に記す。

1. カマイルカ *Lagenorhynchus obliquidens*

1 例目

(1) 2015年2月19日

(2) 大住剛氏

(3) 富山市岩瀬（図1-1）。岩瀬漁港沖30～40 mで、3～4頭のイルカの群を目撃した。撮影された写真より、1頭はカマイルカであった。富山市科学博物館ボランティア桃花鳥の会（2016）でも報告されている。

2 例目

(1) 2015年2月22日

(2) 関東雄

(3) 氷見市唐島沖（図1-2）。唐島沖でイカ釣り中に、3～4頭のイルカを目撃した。1頭のみが写る写真はカマイルカであった。

3 例目

(1) 2015年3月3日

(2) 大住剛氏

(3) 魚津市村木（図1-3）。

「海の駅」の沖合いで5～6頭のイルカの群を確認した。4頭のイルカが写る写真の2頭はカマイルカであった。富山市科学博物館ボランティア桃花鳥の会（2016）でも報告されている。

* 富山市科学博物館研究業績第501号

4 例目

- (1) 2015年 3 月 3 日
- (2) 大住剛
- (3) 魚津市村木 (図1-4). 3 例目と同じ場所の海岸のテトラポッド内で1頭のイルカの漂着 (死亡) 個体を確認した. 撮影された写真からカマイルカのメスと同定された. 富山市科学博物館ボランティア桃花鳥の会 (2015) でも報告.

5 例目

- (1) 2015年 4 月26日13時頃
- (2) 市民
- (3) 氷見市阿尾阿尾漁港付近 (図1-5). 周囲が石積みで海水が流入する溜まりで1頭のイルカの漂着個体 (死体) 発見.
- (4) 4 月28日南部現地調査. 体長194 cmのカマイルカ, オス. 腐乱し, 右胸ビレは消失し, 上顎骨, 下顎骨は白骨化 (図2A).

6 例目

- (1) 2015年 5 月26日13時頃
- (2) —
- (3) 氷見市姿 (図1-6).
- (4) 体長180 cm (氷見土木事務所河川班測定), 雌雄不明.

7 例目

- (1) 2015年 6 月15日
- (2) —
- (3) 高岡市雨晴 (図1-7). 砂浜. 頭部と尾部は砂に埋まっていた (図2B).
- (4) 6 月15日, 南部現地調査. 体長200 cm, オス. 腐乱し, 胸ビレは消失し, 下顎骨は白骨化.

8 例目

- (1) 2015年 6 月15日
- (2) 海岸清掃業者
- (3) 氷見市窪, 仏生寺川河口の南側の砂浜. (図1-8).
- (4) 6 月16日. 南部現地調査. 体長190 cm, オス. 腐乱し, 右胸ビレは消失し, 上顎骨, 下顎骨は白骨化し, 内臓は露出する (図2, C).

9 例目

- (1) 2015年12月24日
- (2) JA氷見市阿尾支所職員発見
- (3) 氷見市阿尾 (図1-9). 撮影されたビデオより, 4頭ほどのイルカが, 海岸近くにあらわれ, その内1頭を背ビレの形状と色彩からカマイルカと同定した.

イシイルカ (イシイルカ型) *Phocoenoides dalli* (dalli type)

- (1) 2015年 4 月20日14時頃
- (2) —

(3) 氷見市阿尾 (図1-10). カマイルカの9例目とほぼ同じ場所.

(4) 4月21日, 南部現地調査. 体長213 cm, オス. 吻先欠損し, 左顔面はえぐれる. (図D1, 2).

2015年は2種の鯨類, カマイルカとイシイルカ (イシイルカ型) が確認されたが, 両種とも富山湾では既知種である.

カマイルカは, 3例の目撃情報と6例6個体の漂着 (死体) を2~6月と12月に確認した. 日本海のカマイルカ

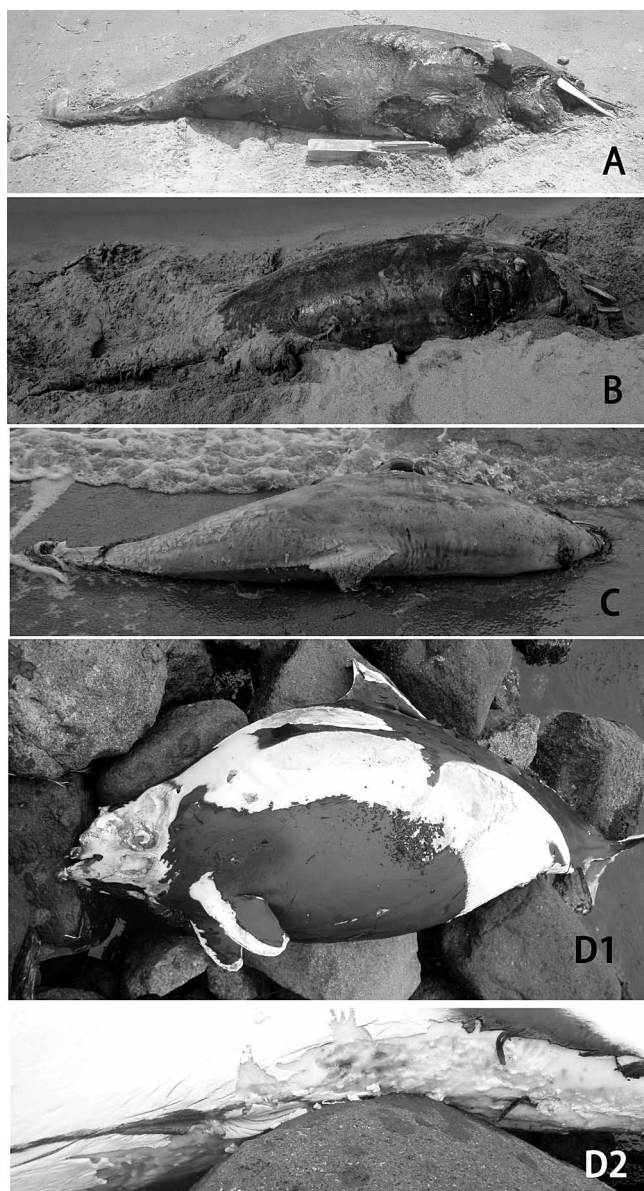


図2 富山湾に漂着したイルカ

A, カマイルカ (♂), 氷見市阿尾, 2015年4月28日撮影. B, カマイルカ (♂), 高岡市雨晴, 2015年6月15日撮影. C, カマイルカ (♂), 氷見市窪, 2015年6月16日撮影. D, イシイルカ (イシイルカ型) (♂), 氷見市窪, 2015年4月20日撮影. D1左側面, D2肛門周辺.

は、冬から夏にかけて本州沿岸を北上し、オホーツク海まで移動すると考えられており (石川, 1995; 岩崎1997), 津軽海峡でも群が通過することが知られている (小野ら, 2010). 富山湾へは北上の途中に来遊すると考えられている (南部ら, 2007). 富山湾では1~6月に目撃又は漂着記録があり, 今回の2015年の2~6月の記録もこの出現期間内にある. 富山湾での最も早い記録は1月の氷見沖の目撃記録であるが (南部ら, 2010), 9例目の12月の目撃情報は, 北上初期に富山湾へ来遊した個体と考えられ, この記録は, 富山湾では最も早い時期のカマイルカの目撃情報であった.

イシイルカは, 富山湾での記録は少なく, 2007年5月17日氷見市泊, 150 cm (頭と尾は欠損) のオス1個体の漂着 (型不明) (南部ら, 2008), 2009年5月23日に高岡市太田の雨晴海岸で体長151 cmのオス (イシイルカ型) (南部ら2010) の2例2個体の記録があるのみであり, 今回で3例目3個体となった.

補足 2013年の富山湾におけるカマイルカ情報

2013年は富山湾 (富山県側) で筆者らは鯨類の漂着, 目撃の情報を収集できなかった. しかし, 2013年5月19日づけの富山新聞によれば, 氷見市に隣接する石川県七尾市沿岸では, 3月中旬以降イルカが定置網に入ることが紹介されている. 掲載された3月4日に撮影された七尾市の定置網に入っているイルカ4頭は, 全てカマイルカと鑑定された. このため, 2013年には富山県側の富山湾にもカマイルカは来遊していたと考えられる.

謝辞

貴重な情報を提供いただいた, 大住剛氏, 高岡土木センター海岸班, 氷見土木事務所河川班, 氷見市水産振興課, 氷見市教育委員会廣瀬直樹氏, JA氷見市阿尾支所の皆様に心よりお礼申し上げます.

文献

石川 創, 1995. ストランディングレコードから見た日本沿岸の鯨類の生態 (II). 鯨研通信, 388: 6-11.
岩崎俊秀. 1997. 13. カマイルカ. 日本水産資源保護協会編. 日本の希少な野生生物に関する基礎資料 (IV). pp. 410-413.
南部久男・稲村 修・田島木綿子・倉持利明・山田 格, 2002. 富山湾における鯨類 (Cetaceans) の記録 (2001年). 富山市科学文化センター研究報告, 25: 129-132.
南部久男・西岡 満・田中 豊・太田希生, 2003. 富山湾における鯨類・ウミガメ類の記録 (2002年). 富

山市科学文化センター研究報告, 26: 145-147.
南部久男・西岡 満・関谷伸一・山田 格・太田希生, 2004. 富山湾における鯨類の記録 (2003年). 富山市科学文化センター研究報告, 27: 75-78.
南部久男・田島木綿子・新井上巳・山田 格・田中 豊・太田希生, 2005. 富山湾における鯨類の記録 (2004年). 富山市科学文化センター研究報告, 28: 91-94.
南部久男・山田 格, 2006. 富山湾における鯨類の記録 (2005年). 富山市科学文化センター研究報告, 29: 113-114.
南部久男・石川 創・山田 格・台藏正一・太田希生, 2007. 富山湾における鯨類の記録 (2006年). 富山市科学文化センター研究報告, 30: 63-68.
南部久男・石川 創・山田 格・田島木綿子・谷田部明子・台藏正一・太田希生, 2008. 富山湾における鯨類の記録 (2007年). 富山市科学文化センター研究報告, 31: 99-102.
南部久男, 2009. 富山湾における鯨類の記録 (2008年). 富山市科学博物館研究報告, 32: 115-116.
南部久男・真柄真実・栗原 望・山田 格・関 東雄・台藏正一・石川雄士, 2010. 富山湾における鯨類の記録 (2009年). 富山市科学博物館研究報告, 33: 105-108.
南部久男・関 東雄・真柄真実・山田 格・太田希生・藤田将人, 2011. 富山湾における鯨類の記録 (2010年). 富山市科学博物館研究報告, 34: 141-144.
南部久男・田島木綿子・山田 格, 2012. 富山湾における鯨類の記録 (2011年). 富山市科学博物館研究報告, 35: 103-105.
南部久男・田島木綿子・山田 格, 2013. 富山湾における鯨類の記録 (2012年). 富山市科学博物館研究報告, 37: 109-110.
南部久男・関 東雄・山田 格, 2015. 富山湾における海棲哺乳類の記録 (2014年). 富山市科学博物館研究報告, 39: 55-60.
富山市科学博物館ボランティア桃花鳥の会, 2016. 富山県の脊椎動物の記録 (2015年). 富山市科学博物館研究報告, 40: 143-150.
小野雄大・佐橋玄記・西沢文吾・山田若奈・柴田泰宙・松石 隆 (2010) 津軽海峡におけるカマイルカ群れサイズの時間的変動. 日本セトロロジー研究, (20): 13-15.
関 東雄・南部久男・山田 格・石川 創, 2005. 富山湾の海上における鯨類の目撃記録. 富山市科学文化センター研究報告, 28: 113-122.